

35 オオソリハシシギ

(チドリ目)

Limosa lapponica

兵庫県ランク: B

繁殖個体群:無 越冬個体群:無 通過個体群:B

環境省ランク: VU

種の概要

スカンジナビア半島北部からシベリア北部、アラスカ西北部などで繁殖し、繁殖後は東南アジアからオーストラリア、ニュージーランド、太平洋西南部の諸島、ハワイなどの海岸に渡り、越冬する。春秋の渡りの時期に日本各地に渡来する。沖縄では一部が越冬する。干潟や河口、海岸の砂浜、河原、水田、ハス田に生息する。ゴカイ類を特に好み、甲殻類や貝類、昆虫類なども採食する。

国内分布

北海道、南千島、礼文島、利尻島、本州、佐渡、舩倉島、見島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、男女群島、屋久島、伊豆諸島、小笠原群島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島



写真提供: 森田俊司

(性別: 不明)

※冬羽

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

神戸市、★姫路市、尼崎市、★明石市、★西宮市、洲本市、伊丹市、★豊岡市、加古川市、赤穂市、★高砂市、淡路市、たつの市、★稲美町、香美町

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数 激減	分布域 激減	餌の 可用性 の低下	特殊 競争 圧	特殊 捕食 圧	特殊 繁殖 環境	特殊 採餌 環境	ねぐ 特殊 ら休 息環 境・	局 地的 繁殖	希 少
○	○	○				○	○		

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

県内では主に3-6月と8-10月に生息する。かつては県南部では50羽から100羽前後の群れが普通に観察されており、越冬例も稀ではなかった。1977年5月には甲子園浜で200羽の群れが記録されている。しかし、生息地の減少に伴い急減し、現在では数羽の群れが記録されるのみである。県北部での記録は少ない。

保護上の留意点

現在もわずかに残されている干潟や河口などの自然環境の保全に加えて、積極的な再生のための環境整備が重要。